

第17回 ICA (国際文書館評議会) 世界会議 ブリスベン大会 参加報告¹⁾

神戸大学 佐々木 和子

I. 概要

日時:2012年8月20日(月)~24日(金)

会場:ブリスベン・コンベンション・エキシ

ビション・センター

(オーストラリア・ブリスベン)

クイーンズランド州立公文書館

(国立公文書館 修復ワークショップ)

参加国:約95カ国/地域

参加者数:約1,000名。日本からの参加者は、

約30名。

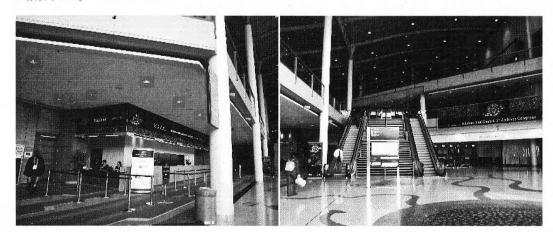
主催:ICA/オーストラリア政府/オースト

ラリア国立公文書館

表1 スケジュール概要

月日	午 前	午 後
8月20日(月)	SPA 運営委員会、ワークショップ	ワークショップ
8月21日(火)	開会式、基調講演、全体会	分科会
8月22日 (水)	基調講演、全体会、SPA 総会	分科会 (日本セッション)
8月23日 (木)	基調講演、全体会	分科会、クイーンズランド州文書館
8月24日(金)	ICA 総会、ワークショップ	視察、閉会式 ワークショップ

- *そのほか、ポスターセッション、企業・団体(文書館等)の展示および事務会合などがおこなわれた。
- *ワークショップは、特定のテーマについて実習などをおこなうもの。一日、半日コースとあり、参加費は別に 徴収された。



ICA 世界会議会場 ブリスベン・コンベンション・エキシビション・センター

Climate of Change - Sustainability, Trust, Identity

アーキビストや情報管理の専門家たちは、紙、フィルム、オーディオビジュアル、デジタルと媒体がさまざまになり、それらの資料を管理、保存し、利用可能にしなければならないという大きな変化の風の中にあり、大きな困難に直面しているとの現状認識の上にたち、今回のテーマが決められた。これらのテーマには、3つのサブテーマー「持続可能性」「信頼」「アイデンティティ」ーが定められ、大会プログラムの分科会発表も、このテーマごとの区分けが表示され、革新的で、双方向的な意見交換がおこなわれることになった。テーマ説明の概略は以下の通りである²)。

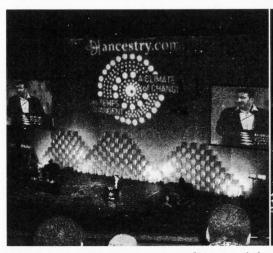
持続可能性:将来世代のために長期間にわたって記録を保存することは、アーカイブの 仕事の中心部である。デジタルの時代に、われわれは自信をもってこれらの使命を果た し、アーカイブを保持し続けられるだろうか。

また、アーカイブで保管されている記録や 作成者によって積極的に利用されている記録 を保存することにも「持続可能性」は必要で ある。気候変動や大災害がおこる世界では、 保存へのチャレンジはより大きくなる。最後 に、持続可能性は、アーカイブ専門職自体の 持続可能性に関連している。技術的な波が 次々と押し寄せるにつれて、情報世界にひろ がっていくからである。

信頼性:情報の真正性、価値、信頼性への信頼や確信を提示することによって、アーカイブは、良好なガバナンス(意思決定)や説明責任をサポートする。

また、情報の管理や維持に責任を負う人々は、倫理的かつ専門的なプロセスを提言し、 その方法や実践について規格を開発し、国際 的な承認を得ることによって、アーカイブ科 学を実証する。

アイデンティティ: 証拠書類による明らかな方法だけでなく、集合的記憶・個人的記憶および物語のもととなるアーカイブの収集を通じて、アーカイブはアイデンティティ (人や組織が何者であるか)の根拠を示す。アーカイブはコミュニティと文化遺産を結びつけ、権利を守る手助けをする。アーキビストへの認識によっても、個々のアーキビストへの認識によってアイデンティティは、アーカイブの性質が変化し、社会自身が変化しているので、21世紀に変化している。われわれは、アーキビストや情報管理家の重要性や存在感、影響力を強化する必要がある。





ICA ブリスベン大会 全体会 2012,08,21

Ⅲ.SPA(国際文書館評議会専門家団体部会)

1. SPA/SC (国際文書館評議会専門家団体 部会運営委員会)

①日時:2012年8月20日(月)8:00~11:30 ②参加者

(2008 - 2012年度委員) 委員長: Henri Zuber (フランス)、副委員長: Fred van Kan (オランダ)、書記: Andrew Nicoll (イギリス)、Colleen McEwen (オーストラリア)、委員: Joan Boadas i Raset (カタルニア)、Cristina Bianchi (スイス)、Trudy Peterson (アメリカ)、Michal Henkin (イスラエル)、Claude Roberto (ケベック)、Berndt Fredriksson (スウェーデン)、佐々木和子(日本)

(2012 - 2016年度委員) Gregor Trinkaus-Randall (アメリカ)、Vilda Ronge (ノルウェー)、Sangmin Lee (韓国)

③概要

- ・4年に1度の運営委員の交代のため、2008-2012年度委員の最後の委員会であった(1期4年、2期まで再選可)。そのため、新委員も3名参加した。
- ・今期は、再任が4名のみで、10名の委員が 交代するという大幅な交代となった(前期 は4名のみ交代)。
- ・ICA 総会で、憲章の改正があるので、総会への参加と議決権の行使を呼びかけた。
- ・世界アーカイブ宣言について、ICA ウェッブサイトからの利用が少数言語への翻訳の

- 必要性が述べられた。Vilda Ronge 氏から ノルウェー語への翻訳が終了し、パリの事 務局へ送付済との報告があった。
- ・Didier Bondue 氏(次期副会長)が、2カ年のICAのマーケティングとその促進計画について意見交換をおこなうため、またどのようにすれば会員を増やせるか運営委員の意見を聞くため、委員会に参加した。
- ・2013年度 ICA 会議・総会はブラジル開催 予定であったが中止。代わってパリかもし れないが、9月末に決定。2014年度はジロー ナ (スペイン)を予定。2015年にはアフリ カ開催を希望。

2. 総会

①日時:2012年8月22日 (水) 11:00~12:30 ②2012-2016年度委員:

再任: Cristina Bianchi (スイス)、Fred van Kan (オランダ)、Bernhard Post (ドイツ)、Claude Roberto (ケベック)

新任: Joan Antoni Jimenez (カタルニア)、Maria Celina Soares de Mello e Silva (ブラジル)、Ousmane M'Baye (フランス)、Galia Duvidzon (イスラエル)、Simon Fook Keung Chu(香港)、Dario Martinez(メキシコ)、Vilde Ronge (ノルウェー)、Piotr Zawilski (ポーランド)、Sangmin Lee(韓国)、Gregor TrinkausーRandall (アメリカ)



SPA 運営委員会 2012.08.20



SPA 総会 2012.08.22

③新委員長等の選任

委員長: Fred van Kan (オランダ)、副委員 長: Bernhard Post (ドイツ)

書記: Cristina Bianchi (スイス)、Claude Roberto (ケベック)

④ 団体報告

・参加団体の多くが、経済的困難な状況にあることを報告していたのが印象的であった。

Ⅳ. 分科会報告:日本からの報告

日本からは計10名(全国歴史資料保存利用機関連絡協議会派遣1名、国立公文書館派遣8名、企業史料1名)の講師が東日本大震災、公文書管理法制、デジタルアーカイブ等をテーマとした発表をおこなった。国立公文書館は、日本からの報告を「日本セッション」と名付け、資料配布をおこなった。各報告者一覧は表2の通りである。また、原稿は、ICA(英語)および国立公文書館ホームページ(佐々木、松崎氏分除く)に掲載されている²¹。

①佐々木報告概要

・タイトル:「東日本大震災後の資料レスキュー活動—ボランティア団体及び全史料協

の視点から1

・概要

2011年3月11日におこった東日本大震災発災後、全史料協、史(資)料ネット等のボランティア・NPO団体、国公立公文書館、研究機関、大学等によって、被災史料の救出活動がおこなわれてきた。これらの活動は、1995年1月17日の阪神・淡路大震災後に神戸で始まった。当初、神戸で短期間のつもりで始まった歴史資料ネットワーク(史料ネット、神戸)は、災害の多発する我が国で、災害ごとに各地に同じようなネットワーク創設の手助けをし、現在その数は20近くに及んでいる。

東日本大震災では、2003年に設立された宮城 資料ネットを中心に被災史料のレスキュー活 動がおこなわれた。さらに、津波被災自治体 では、現用公文書が大きな被害を受けた。こ れらの救出には、全史料協をはじめ、国公立 公文書館、大学・研究機関(国文学研究資料 館)があたった。全史料協は、陸前高田市に ボランティアを派遣し、被災公文書の救出活 動に従事したのである。

Cooperation and Recovery after the March11th East Japan Earthquake

: From the standpoint of voluntary groups and JSAI

KOBE University

Kazuko SASAKI (Japan Society of Archives Institutions) JSAI Restoration Project for damaged Public Documents at Rikuzentakata city, wate pref.

- Sent 49 staff members of the JSAI in total (Volunteer)
- · Operated jointly by Rikuzentakata city
- · Provided technical training
- Cleaning, flattening, and drying of documents
- · Recovered documents: About 5,000 volumes,
- * This project was undertaken with Housei University and Kanagawa Prefectual Archive.











表 2 分科会報告― 日本セッション

8月21日 (火) 14:00~15:30 P1 会議室 テーマ区分:「信頼性」

・小池聖一 広島大学文書館長・教授 「日本の大学アーカイブス―広島大学文書館を事例に―」

- ・白井哲哉 筑波大学図書館情報メディア研究系准教授 「日本の地方自治体における公文書管理制度の整備と公文書館の設置へ向けた取り組み」
- ・岡本信一 福岡大学教授、前内閣府大臣官房公文書管理課長 「公文書管理法の制定の意義と施行後の課題」

16:00~16:30 P3 会議室 テーマ区分:「信頼性」

・高野明彦 国立情報学研究所教授、連想情報学研究開発センター長 「検索から連想へ―知識の蔵を繋ぐ方法|

8月22日 (水) 13:30~14:30 P1 会議室 テーマ区分:「持続可能性」

・高山正也 国立公文書館長 「悲惨から明日への希望の発見:東日本大震災からの復興への歩み」

- ・佐々木和子 神戸大学地域連携推進室研究員 「東日本大震災後の資料レスキュー活動―ボランティア団体及び全史料協の視点から」
- ・長坂俊成 (独) 防災科学技術研究所主任研究員、リスク研究グループ長 (発表原稿を国立公文書館 小原由美子氏が代読) 「東日本大震災における公民連携による災害デジタルアーカイブの取り組み」

14:30~15:00 P1 会議室 テーマ区分:「アイデンティティ」

- ・風間吉之 国立公文書館業務課電子情報第二係長「国立公文書館デジタルアーカイブ」
- ・平野健一郎 アジア歴史資料センター長 「デジタル・アーカイブズと歴史理解および歴史研究|

8月23日 (木) 13:30~14:15 M1 会議室 テーマ区分:「アイデンティティ」

・Didier Bondue、Maggie Shapley、松崎裕子(公益財団法人渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター企業史料プロジェクト担当)

「ビジネスアーカイブー持続可能性、信頼性、アイデンティティ」

V. クイーンズランド州立公文書館の見学

①日程:2012年8月23日(木)午後2時~4 時頃

②概要

- ・運営企画担当マネージャー及保存担当者に よる説明によって館内見学がおこなわれ た。
- ・1959年設立、1992年に建物を建築し、総書架延長48キロ、まだ40キロの余裕がある。平屋建ての検索室では、スタッフや閲覧者のための部分は前方に、レポジトリーは光

が入らないように後方に設けている。

- ・2008年に増築された。新レポジトリーは15 ~エコ建物で、雨水をトイレ雑用水、エア コンを水冷式に使用。
- ・害虫対策のため、食堂以外では、執務室内 も食べ物は禁止している。害虫が見つかれ ば煙蒸をおこなう。
- ・防火設備として、レポジトリ扉は4時間の 耐火扉となっている。リスクとコストを考 え、消火設備はスプリンクラー(水)を使 用している。

- ・同館は、クイーンズランド州政府作成文書、 州内市町村文書を受け入れる、連邦政府文 書はオーストラリア国立公文書館扱い。個 人文書は受け入れていない。永年保存文書 のみを受け入れている(全資料の約1%)。
- ・重要度の高いもののみマイクロフィルム撮 影をおこない、非常に重要度の高いものは マイクロフィルムをビクトリア州に保存し

ている。

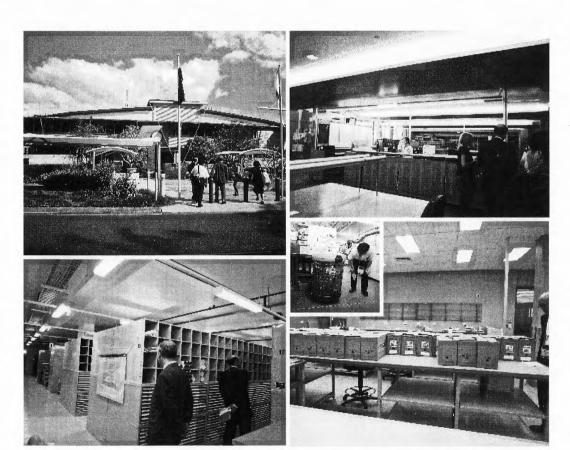
- ・PVCカバー等は取り外し、環境にやさし いものに取り替え保存している。
- ・地図・図面は約20万点あり、取り出しやす い配架になっている。
- ・職員数は70人、ボランティアスタッフは14 人。男女比は女性2/3、男性1/3。ほ とんどがフルタイムである。

住所: 435 Compton Road, Runcorn, Queensland 4113

開館日及時間:月〜金曜日、午前9時〜午後4時30分(祝日、クリスマス、新年休暇を除く)。

公開室は、毎月第二土曜日、午前9時~午後4時30分開室。

ホームページ: http://www.archives.qld.gov.au



左上 公文書館全景 右上 公開室 右中央 取り外した金具 左下 地図・図面棚 右下 分別室

VI. ICA 年次総会

①日時: 8月24日(金)午前8時30分~午後 1時

②概要

- 会長メッセージとして、次のようなことが 述べられた。2010年から会長であったが今 回再任された。今回の総会で2年任期から 4年任期に変更された。ICA の組織の近代 化をはかり、ボトムアップの組織にした い。昨年変更されたように、CITRA (International Conference of the Round Table on Archives、円卓会議)を館長会議と年次総 会にし、オープンなものにしていく。憲章 やプログラム委員会も変更していく。現 在、公文書館に対して大きな圧力、特に財 務面での圧力が大きくかかかっている。予 算が25~30%削減されたところもある。そ れを認識する必要がある。パーティの時期 は終わった、改革をおこなう。アーカイブ の機能が何にあるか、明確なメッセージを 伝える必要がある。世界アーカイブ宣言、 倫理綱領、アクセス原則は中核的なモノで ある。国際的なメッセージを発することが 2年間の重要な課題であり、ICA がおこな うことである。ICA 自体を価値あるネット ワークとして維持するために、多大な努力 が必要である。加盟費、財源等、予算の再 評価等 ICA にもメンバーにも厳しい状況 にある。
- ·ICA の決算及び予算の承認がおこなわれた。
- ・会則の改正がおこなわれ、基本的には会則 はシンプルに、具体的な内容(投票権の比 重、事務局長の承認等)は内規でおこなう こととなった。
 - →内規案の提示について、会員から質問が あった。会長から、すでに会則をベースに 準備されているが、執行委員会を経て、来年 度の総会で決定されるとのことであった。
- ・会則改正で最も議論が紛糾したのは、「地域部会」(EASTICA、東アジア支部など) 会員のICA 加盟問題である。従来地域部

- 会のみの加盟が認められていたのが、今後 ICA 加盟が必須との改正案に対し、会費負 担の面などから反対意見もでたが、改正案 通り可決された。
- 「アーカイブへのアクセス原則」の条文が 承認された。
- ・2013年度年次総会開催予定であったブラジルが開催を撤回した。次年度開催地については、現時点では公表できないということであった。
- ・2016年度 ICA 世界会議開催地はソウルに 決定した。

VII. おわりに

今回の世界会議では、ICAが変化の時期にあることを実感した。象徴的な言葉が、Berendse 会長の「パーティの時期は終わった」という言葉である。アーキビスト達がゆっくりと意見交換をおこなう場ではなくなったということを示している。

今回、大規模な公式スポンサーの募集がおこなわれ、金額によって、「チタン・ゴールド・シルバー・ブロンズ」と段階別に、会議での特典が設けられ、プログラムにも休憩時の茶菓の提供が「○○」提供と記された³)。

チタンスポンサーには、アンシェストリー・コム社(Ancestry.com)という「家系図(family history)のための資料(resource)をオンライン提供する世界最大」企業が応募した。同社はイギリス公文書館、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州公文書館とともに、オープニングのパネルディスカッション「第三者によるデジタル化:変化の時における積極的アプローチ」(Third party digitalization:A positive approach in a time of change)のパネリストを務めていた。

同社の紹介時には、「アーカイブを一般の人にアクセスできるようにし、一般の人が興味を持っている家系図」に関連させた第一人者と紹介された。イギリス国立公文書館から、家系図関連の企業は「補助金によって構築されたWEBサイトは持続可能性ができな

また、今回の分科会報告は、題目・要約を 事前に公募し、主題や内容のバランスを加味 し、報告者を決定するという、学会方式と同 じ方法がとられた。A会員(国立公文書館 等)、B会員(専門家団体等)のみ参加の CITRAから、全会員参加の年次総会方式と なったのと同様、多くの会員へのオープン度 を高めたものとなった。

次年度総会開催地の辞退がおこり、会議時に公表できないことには驚かされた。次回世界会議の開催地はソウルである。次回会議には、今回の会議の成果がどのように引き継がれるか、隣国でもあるので日本からの多くの参加が望まれる。

注

1) 大会報告として、国立公文書館、渋沢栄一記念 財団 実業史研究情報センターホームページ、 『アーカイブズ学研究』第17号等で報告がおこな われているので、参照されたい。

国立公文書館:http://www.archives.go.jp/about/publication/archives/048.html

実業史研究情報センター:http://www.shibusawa. or.jp/center/ba/bn/20121106.html

古賀崇「国際アーカイブズ評議会 (ICA) 2012年 ブリスベン大会に参加して」

2) ICAホームページに掲載。

http://www.ica.org/305/about-the-congress-2012/discover-the-themes-of-the-international-congress-2012.html 参照。

- 3) http://www.archives.go.jp/ica2012/sponex.html参照。
- *ホームページは、2012年12月確認。ICA